

給付制奨学金の創設と 学費負担軽減をもとめる署名

衆議院議長 殿

参議院議長 殿

〔請願趣旨〕

「奨学金を月6万円借りて、学費にあてている」「奨学金の返済が不安」——高い学費や生活費のために、学生の2人に1人が、将来の借金となる奨学金を利用しています。平均利用額は300万円にものぼり、多くが有利子です。

現役学生は、奨学金返済の不安を抱えて、安心して学べません。奨学金の利用を控え、過重なアルバイトをせざるを得ない学生も増えています。学生をもつ家族の負担も限界です。卒業生は、奨学金の返済に生活が圧迫され、高校生は、経済的理由から進学を断念する人が後を絶ちません。

高い学費と「教育ローン」と化した奨学金が、若者に「進学をあきらめるか、バイト漬・借金漬で進学するか」という究極の選択を押しつけている現状の解決は待ったなしです。

政府は、世論に押され、給付制奨学金創設に向け、具体化を始めました。給付額では、重い学費負担の軽減につながるよう制度をスタートさせるうえで、少なくとも月3万円（授業料平均の約半額）が必要です。支給対象は、経済的に困難な世帯を優先しつつ、広範な学生が受給できるよう、70万人（奨学金利用者の約半数）の規模が求められます。

また、貸与制奨学金の無利子切り替えや、若者の生活を追いつめないように返済方法の改善も急務です。何より、高い学費の値下げにふみだし、10年間で半額程度に引き下げるべきです。

以下の項目を請願します。

〔請願項目〕

- 1、少なくとも月3万円、70万人規模の給付制奨学金を創設すること
- 2、有利子奨学金を無利子に切りかえること。所得連動型返済制度や減免制度の拡充、延滞金や保証人・保証料の廃止など若者の生活を追いつめないよう返済方法を改善すること
- 3、高い学費の値下げにふみだし、10年間で半額程度に引き下げること

氏 名	住 所

〔取り扱い団体〕